

就学を見据えた時期における、保護者との関わりで大切にしていること

弟子屈町役場健康こども課保健師 渡邊 麻依子

子どもの成長が進み、就学を意識し始める「これから」を見据えた時期に、保護者の気持ちに寄り添いながら、安心につながる関わりを弟子屈町の保健師の立場から渡邊さんにお話を伺いました。

1 弟子屈町の子育て支援について

——渡邊さんはどのようなお仕事を担当されているのですか。

(渡邊さん) 主に妊娠期から出産後の子育て期までを支援し、乳幼児健診を中心に、療育機関との連携や会議にも関わっています。また、産後ケア事業やお母さんのレスパイト支援などの制度整備にも取り組んでいます。

——弟子屈町の子育て支援について教えてください。

(渡邊さん) 弟子屈町では、子どもや家庭を切れ目なく支えるための支援ツール「ましゅうのわ」(図)を、2022年3月から乳幼児健診等でお渡ししています。子どもが生まれたその日からの成長の歩みを丁寧に残し、必要なときに振り返ることができること、そしてその子どもの歩みが一目で分かるものになることを願って作成しました。

乳幼児健診では、健診日や健診結果、発達や身体の成長の様子などを保健師が記入し、ご家庭と一緒に積み重ねていきます。就園や就学、転出など環境が変わるときにも、これまでの健診結果や発達の経過、支援の内容を一つの記録としてまとめて伝えることができるため、初めて子どもと関わる先生や支援者にも子どもの様子を理解してもらいやすくなります。保護者が安心して子育てを続けられるよう、担当者が変わっても支援が途切れない体制づくりを進め、地域全体で子どもの成長を見守ることを大切にしています。



図[ましゅうのわ]

2 保護者からの相談について

——渡邊さんが保護者と関わるときに大切にされていることはありますか。

(渡邊さん) 私が保護者と関わる際に大切にしていることは、保護者の思いをまずはそのまま受け止めることです。子育ての中で感じる不安や迷いは、どのご家庭にもあるものです。お話を聞く中で「心配なさそうかな」と思える場面もありますが、日々子どもと関わっている保護者が抱く違和感や「なんとなく気になる」という感覚には、きっと意味があると感じています。子どものことを一番よく知っているのは保護者です。

だからこそ私は、「支援する側」としてだけでなく、「教えてもらう」気持ちでお話を聞くことを大切にしています。また、保護者が、安心して自分の気持ちを話せるように心掛けています。

3 関係機関との連携について

——保育園やこども園との連携で工夫していることはありますか。

(渡邊さん) 弟子屈町には、町立の保育園と民間のこども園があります。保健師や発達支援センターの職員が定期的に園を訪問することで、電話では伝えきれない細やかな情報交換や保護者との相談がしやすい関係が築かれています。月に一度の会議では、療育につながっている子どもの情報や、集団生活の中で個別の支援が必要な子ども、就学に向けて発達面や生活面で気になる様子が見られる子どもについても、担任の先生方と情報を共有し、協力して支援に当たっています。お互いに声を掛け合い、顔を合わせることで、園と家庭、そして支援機関の間に風通しのよい関係が生まれ、子どもたち一人一人に合わせた支援につなげることができるのではないかと考えています。

4 さいごに

——保護者の皆さまにメッセージをお願いします。

(渡邊さん) 子どもを取り巻くさまざまな関係の中で、保健師として一番大切にしているのは「普段からの関わり」です。子育て支援における連携は、特別な場面で生まれるものではなく、日々の小さなコミュニケーションの積み重ねから生まれるものだと感じています。相手の話を傾聴し、気持ちに寄り添い、時には雑談も交えながら関係を深めていくことで、安心して率直に話し合える関係が育っていくと考えます。こうした風通しの良い関係が、保護者や関係機関との連携を深め、子どもにとってよりよい環境づくりにつながっていくと思います。焦らず、一步ずつ関わることで、やがて大きな支えになります。日々の小さなやり取りや関わりが、思いもよらないほど大きな力になる。そんなことを、活動の中から改めて実感しています。そうした普段からの関わりを大切にしながら、これからも保護者の皆さんとともに子どもの成長を支えていきたいと考えています。

——この度は、保護者と向き合う際に大切にされている関わりについて、お話をお伺いさせていただきありがとうございました。

(渡邊さん) ありがとうございました。

